

人むすびの場

第38回テーマ
“取材力を考える”

日時	平成23年9月28日(水) 午後7時～9時
会場	スペースU
企画運営	“人むすびの場”づくり企画運営チーム

人むすびの場”をともに創りませんか？

- 「むすひ(産霊)」とは、ものを生み出す力のことを表す古語です。場には、不思議な力が宿ります。何かが生まれ行くエネルギーに満ちています。
- 「人むすびの場」は、ご参加の皆さん全員が「場づくり人」として、思いと知恵を分かちあう「対話と創発の場」です。
- 他者との対話を通じて見えてくる自分自身の思いへの気づき、次なるステップへのヒント、自然と生まれるつながりの発展の機会としていただけたらと思っています。
- 私たちの世界は、「人と自然」「人と人」のつながりが薄くなり、様々な問題を抱えています。でも、世の中には人財、知恵もそこかしこにあり、結び合うことで問題解決のパワーも生まれてくるに違いありません。
- 今の自分の一歩が、世の中がよくなることにつながる。そんな互いの思いを分かち合うことから、「和・環」となって、何かが変わることを信じている人々の集まりにしたいと思います。
- 「人むすびの場づくり企画運営チーム」へも是非ご参画ください。
- 新しいアイデア・企画の提供など、もろもろご意見をお待ちします。



プログラム

- 19:00 ◆オリエンテーション 人むすびの場とは
“人むすびの場”づくり企画運営チーム 高重 和枝
- 19:05 ◆スピーチ
「取材力を考える」
須貝 道雄(すがい みちお)さん
(新聞記者)
- 19:50 ◆人むすびカフェ
ファシリテーター 高重 和枝
- 20:55 ◆本日のまとめ
21:00 終了
交流会(ピアンタ)



「取材力を考える」

ゲスト 須貝 道雄(すがい みちお)さん
(新聞記者)

新聞制作の現場も変わり、新聞記者同士で議論することも少なくなっている。最近、自分自身でも新聞を読んで疑問に思うことが多くなった。

1. みんなが同じことを言う。論調の一元化。異端が消えた

- ・新聞でも放送でもストライクゾーンの中で、書いたり述べていたりしているようだ。
- ・最近では菅直人おろし。根回しが無い、市民運動レベルと批判し、中身の評価ではなく、手続きばかりが問題視される。

2. 通説・俗説・神話を検証せずに主張する傾向が顕著

- ・典型は「日米同盟」を絶対視する報道姿勢
- ・原子力発電の安全性神話に対しても、今回の事故が起こるまで、それに疑問を呈して書いていた新聞はあったらどうか。

3. エコノミストらの不思議な論理の鵜呑みが目立つ

- ・派遣という働き方を禁止すると、企業が採用に慎重になるから失業者が増える。最低賃金を上げると、雇用不安を生み出す。
- ・実情の取材よりも、経済効果を机上で議論し、人権の視点が抜けており、本質の議論がされていないおかしさ。

4. 「痛みを分かち合う」論の台頭 新聞・放送が庶民の味方から離脱か

- ・「痛み」とはすなわち消費税の増税、社会福祉の給付水準の引き下げなどについて、「痛み」を回避する手段・方法の取材や追求の姿勢があまり見られない。
- ・新聞記者が偉い人になったようで、庶民の味方に立っていない。

5. 新聞に求められるのは「論より実態解明」

- ・「危険な職業、ジャーナリスト」という言葉の意味を考える。
- ・危険なところに行かなくなっているが、そこにニュースがある。新聞の命は現場にある。

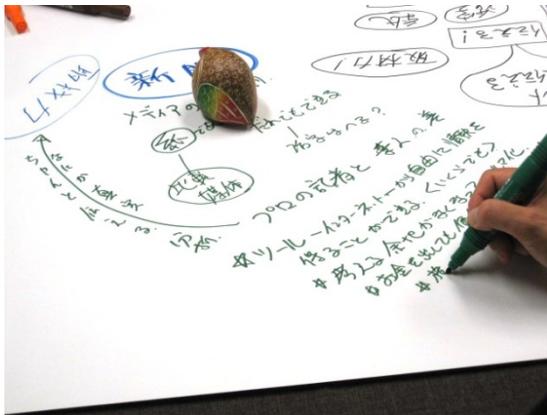
6. JCJ(日本ジャーナリスト会議)「ジャーナリスト講座」開講の目的

- ・上記のような危機感を一番感じているのがベテラン記者である。
- ・記者が会社の枠を超えて横につながる重要性を大切にし、独立した一記者としての目線を確立してもらいたいと考えている。

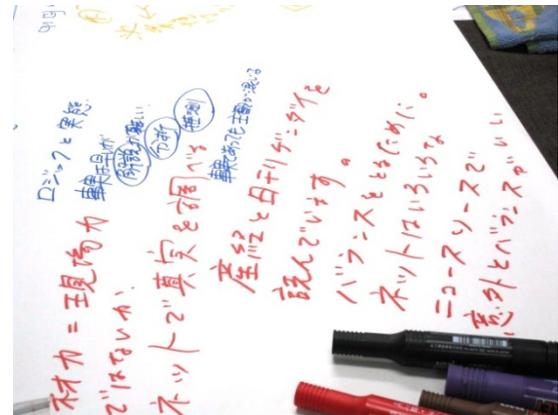
【須貝道雄さん 経歴紹介】

東京都出身 1974年に大手新聞社に入社。静岡支局、東京社会部、整理部、福岡支社編集部、婦人家庭部、前橋支局長などを経て、2004年から生活情報部・編集委員。



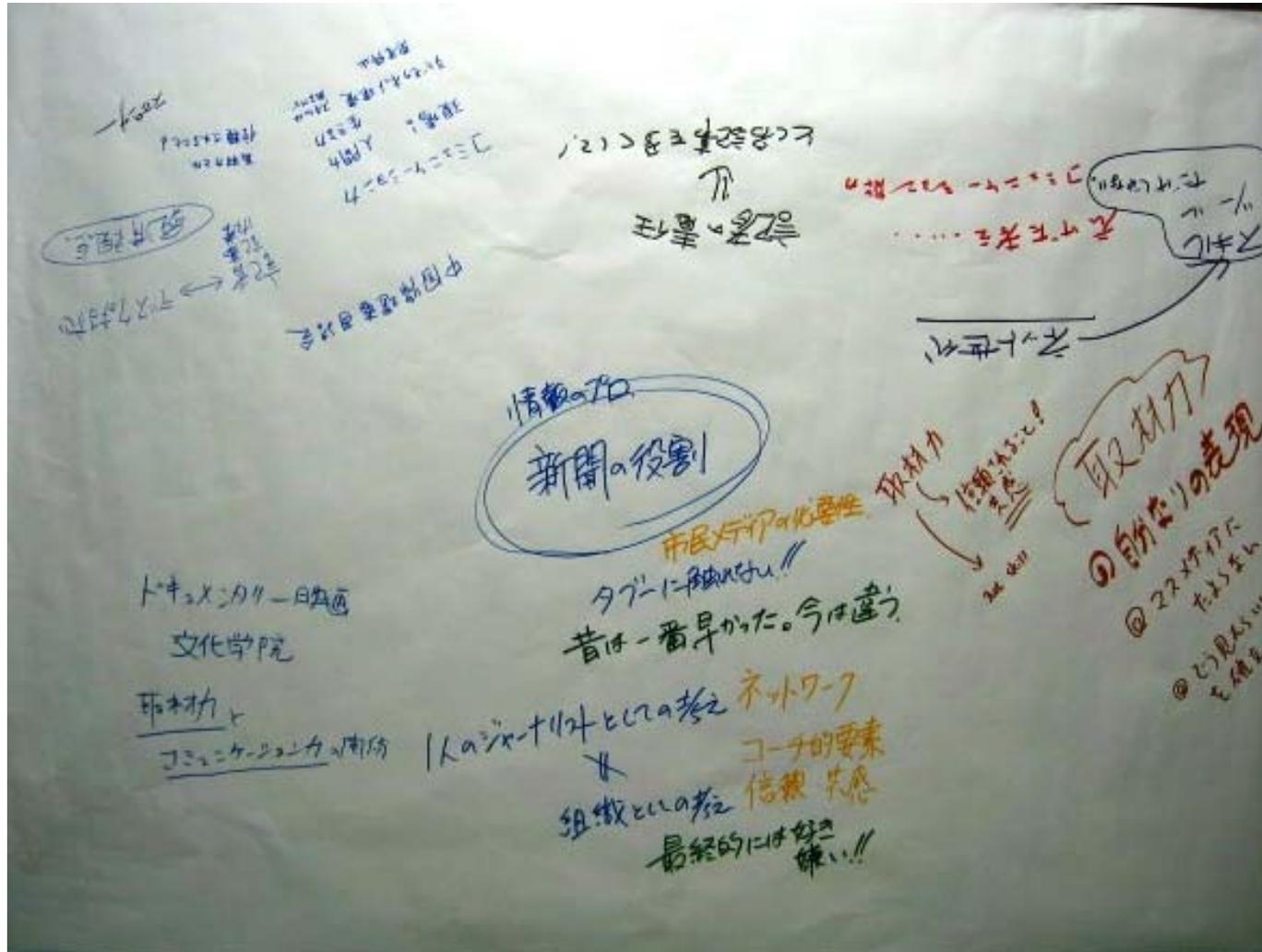


人むすびカフェ



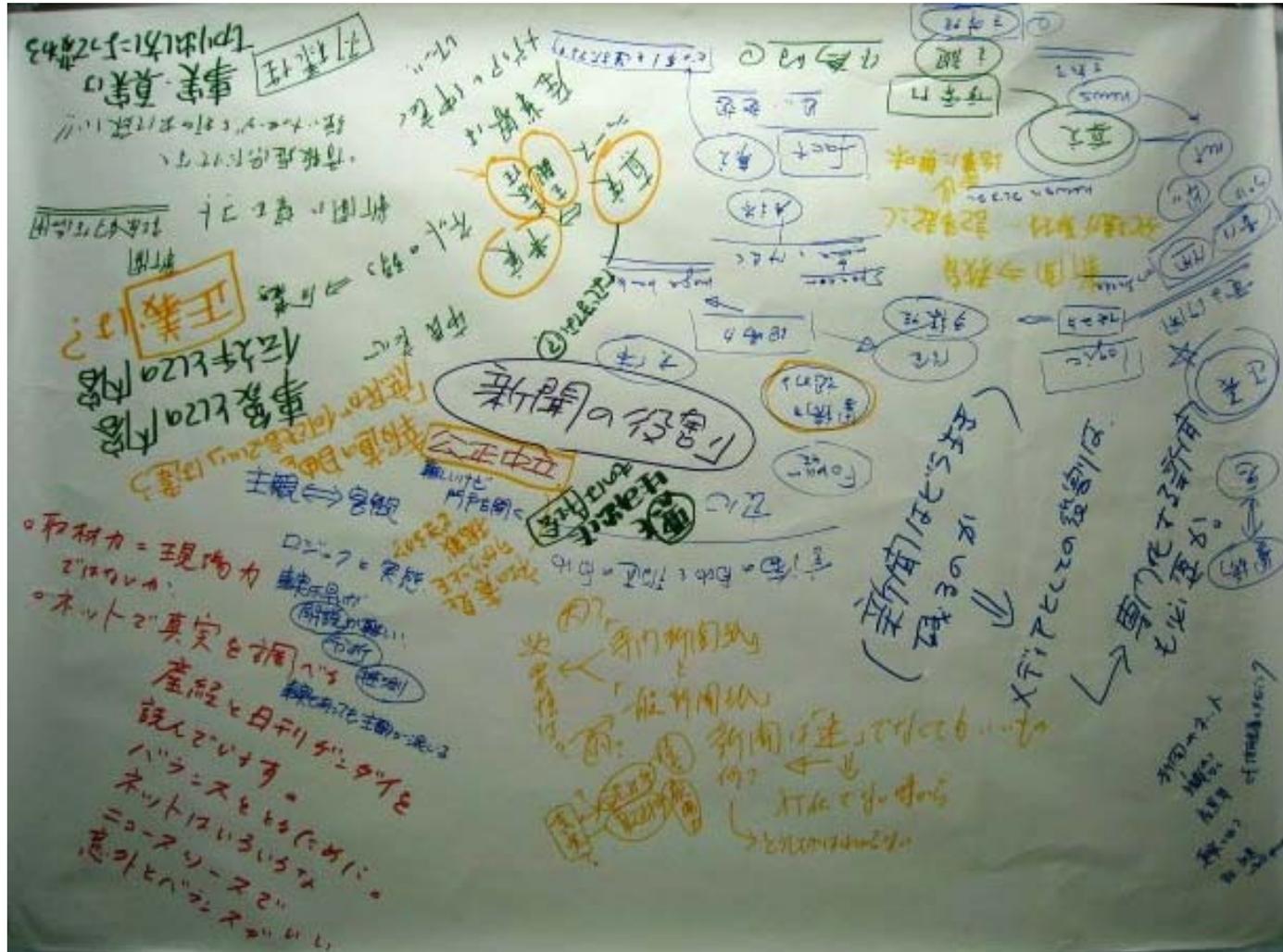
人むすびカフェ

「マスメディア、とりわけ新聞の役割は何でしょうか？
『取材力』を高めるとどんな可能性が開くでしょうか？」



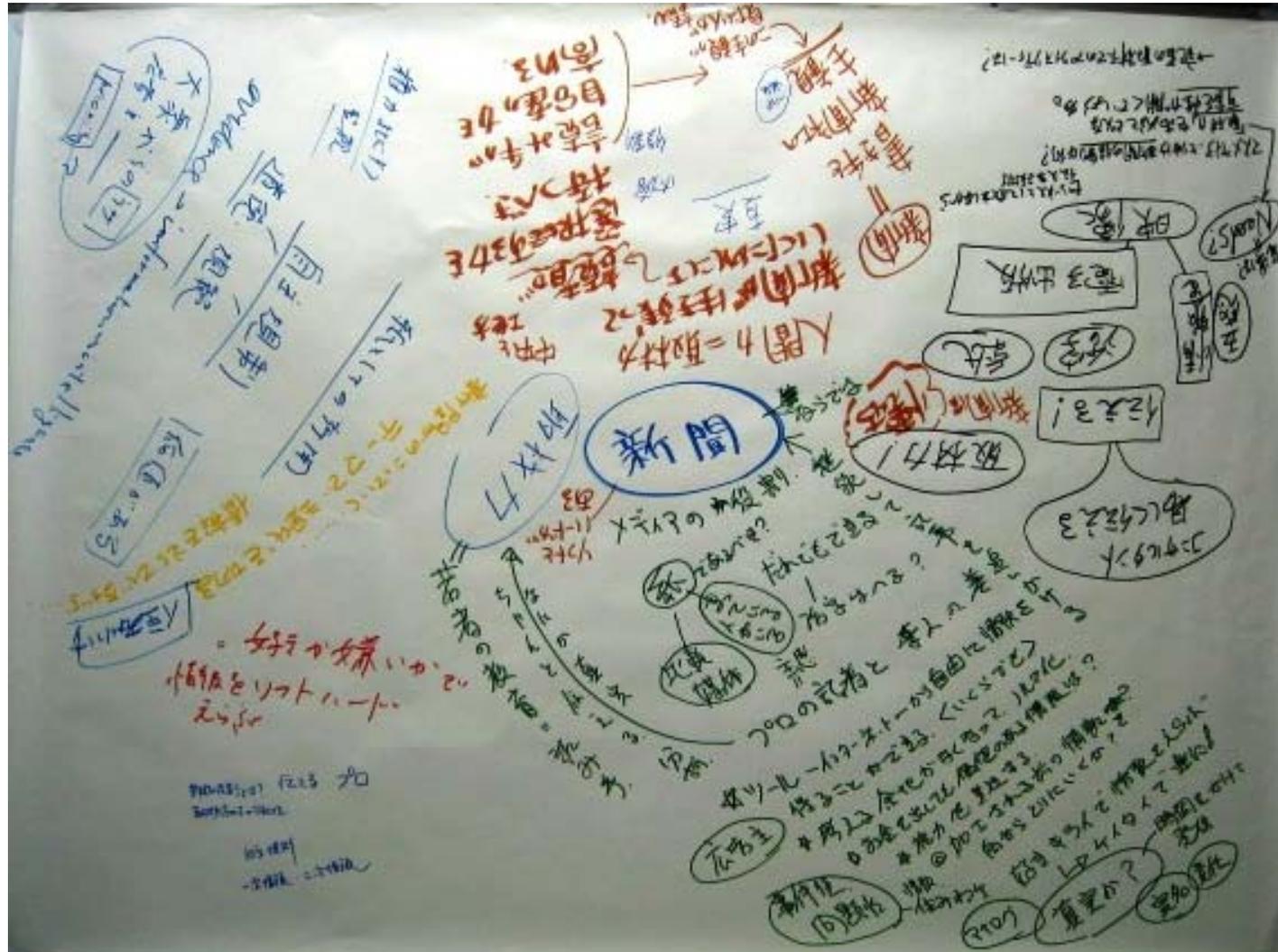
人むすびカフェ

「マスメディア、とりわけ新聞の役割は何でしょうか？
『取材力』を高めるとどんな可能性が開くでしょうか？」



人むすびカフェ

「マスメディア、とりわけ新聞の役割は何でしょうか？
『取材力』を高めるとどんな可能性が開くでしょうか？」



本日の感想①

* 今日、どんな気づきがありましたか？

- ・新聞の強みって何か再認識できました。取材力自体がいくつかの柱から構成されそうなこと
- ・聞き、話す中で自分の考えを整理しやすかった。やはり、電子化社会(紙はほとんどなくなる)かなと思った。
- ・現場の新聞記者から生の声を聞くことができたのが収穫でした。「取材力」を考えるとというテーマでしたが、6つのサブテーマに分かれて話を聞くことができたのは良かった。
- ・一つのお題に対しての様々な解釈があることに(あたりまえ)改めて気づいた。
- ・いつもと違う人と話すことの大事さ
- ・真実という言葉が、報道では真実という意識はあまりもたないということ
- ・メディアの多様化の中で、私自身が思っていたよりも“紙媒体としての新聞”が危機的な状況にあるんだなと気づきました。
- ・情報メディアの今後の重要性。活字だけではない。テーマ性のある内容を追いかける等
- ・新聞がどう生き残るか。紙ベースである意味はあるのか？
- ・年配の方は新聞を読むことが普通となっている。読まない若者を理解出来るが、やはり読むべき、読んでほしいという感情が強い。
- ・大ありのコンコンチキ
- ・とても重いテーマであったためなのか、言葉が慎重になった。
- ・人の話を聞くということの重要性が分かった。自分の意見だけに終始することの滑稽さを感じとれた。
- ・メディアの変化、新聞の魅力(強み)は何かを再考させられた。
- ・新聞 ⇒取材力 ⇒人の能力(人間性)
- ・若者の活字離れが激しい。電車に乗っていても新聞、本を読んでいる風景に出会わなくなった。
- ・新聞記者がサラリーマン化している。
- ・取材力 ⇒コミュニケーション力と思ったこと
- ・「取材力」への皆さんの関心が高いこと。取材力を分解するとそれはコミュニケーション力であるとか人間力に通じる。教育面でも大事なテーマになるだろうとの意見が参考になった。
- ・グループによって話し合いの内容は違うのだが、話の主旨に変わりはない。

本日の感想②

* 一番、印象に残ったこと(キーワード)はどんなことでしたか？

- ・信頼
- ・プロフェッショナル
- ・人間力
- ・女子高生が文庫本を読んでいない！
- ・真実・異端・正義・悪
- ・真実とは？正義とは？多様性とは何か？
- ・取材力は人間力
- ・人間力 コミュニケーション力 現場 =取材力
- ・原発問題と日経新聞の姿勢
- ・時間がゆっくりと流れていた。
- ・事実と真実の意味
- ・新聞の役割の変化
- ・人間関係
- ・今、若者は新聞を読まなくなった。
- ・真実・事実にもバイアスがかかっている。
- ・はじをかく。
- ・「真実」とは何か。事実とどう異なるのか。
- ・新聞の役割 新聞＝インターネット情報

本日の感想③

*** その他、よかったこと、残念だったこと、質問など、ご自由に。**

- ・話題提供者の方と直に対話できたこと みなさんの熱意や熱気
- ・初めて参加させて頂きました。ありがとうございました。
- ・ワールドカフェが初めてでしたが、とても楽しかったです。ありがとうございました。
- ・深く掘り下げていくプロセスはとても楽しかったです。このtopicsは尽きないと感じました。
- ・時間が足りなかったです！（いつもながらですが）
- ・人との出会い
- ・今度は取材のスキル的なお話が聞きたいです。（具体的な）
- ・テーマに迫った話が少し少なかった。ズレた話が多かった。
- ・それぞれ新聞の解釈がちがうことがわかった。
- ・一人の意見が影響力がかなり大きく作用された。
- ・多様な意見が聞けて、大変参考になりました。
- ・いつものファシリテーターのお顔が見えなかったのが残念でした。
- ・どんな産業にも世代間格差があって、若い世代は派遣社員など大変だと思った。
NHKの番組も下請会社が作っている。
- ・一人の発言が長いので、多くの人の発言がきけないこと⇒ワールドカフェの持ちようなので仕方ないですが・・・。
- ・ワールドカフェ形式は初でしたが、すごく参考になる機会でした。

皆さん、ご一緒に場をつくってくださってありがとうございました。